

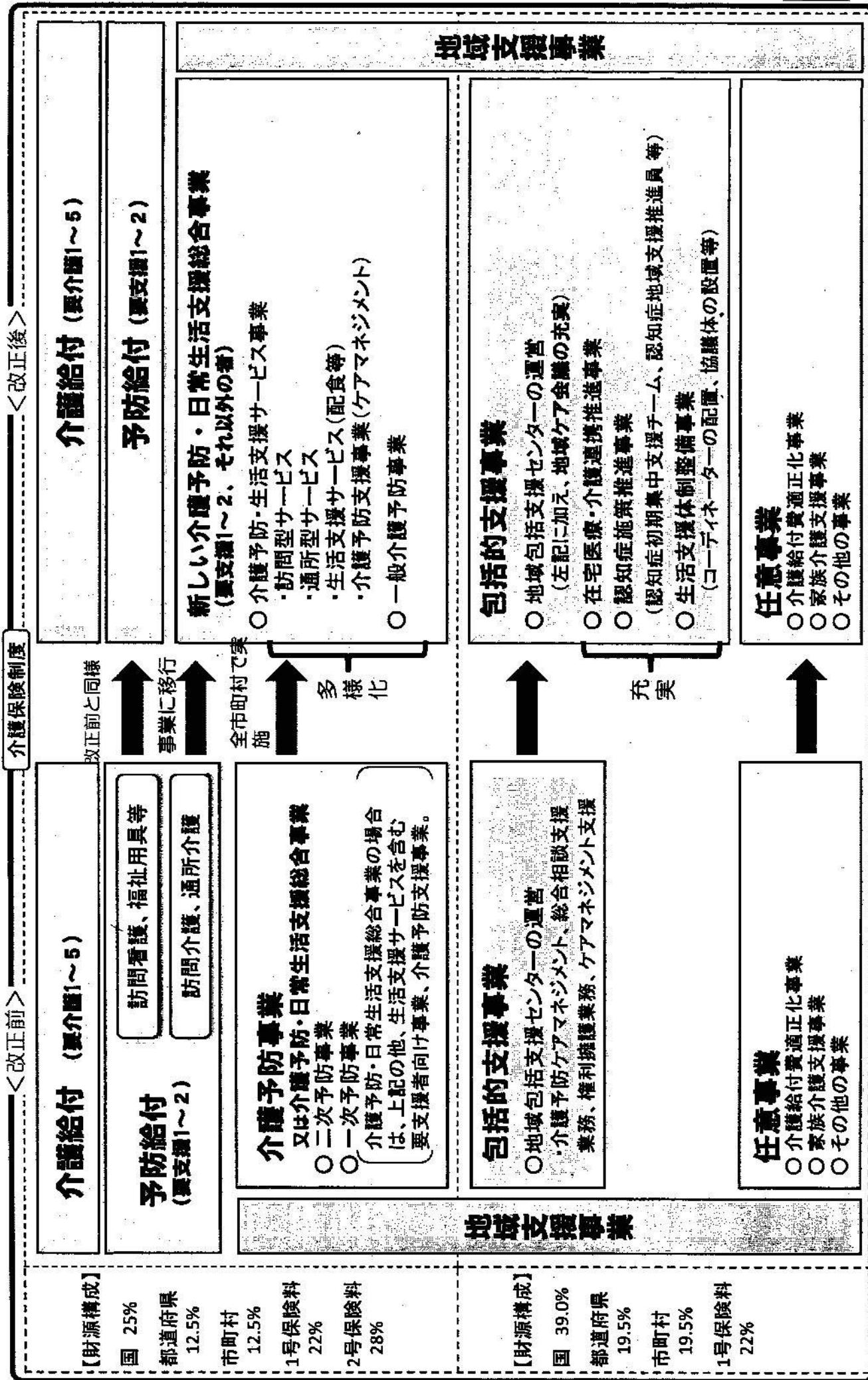
地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目前に、重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。

地域包括ケアシステムの姿



地域支援事業の全体像



※厚生労働省資料を一部改変

生活支援体制整備事業について

高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が増加する中、高齢者の質を向上させ、不安感や孤独感の解消を図り、住み慣れた地域で安心し生活ができるよう、体制づくりの推進が求められている。そのためには、高齢者のニーズや地域課題を踏まえたうえで、既存サービスの充実を図ることはもとより、ボランティアをはじめとする多様な主体による生活支援サービや地域資源の創出など、新たな取り組みについて検討を進める必要がある。

1 市が行う高齢者の生活支援サービス

- はり・きゅう・マッサージ等施設利用
- 寝具洗濯乾燥消毒サービス
- 訪問理容サービス
- 紙おむつ給付
- 配食サービス
- 外出支援サービス
- 生活管理指導員の派遣
- 緊急通報装置の設置
- 生活管理指導短期宿泊事業
- 日常生活用具給付等事業
- 救急医療情報キットの配布
- ふれあいデイサービス（介護保険以外）

2 民間企業・ボランティア等による生活支援サービス

- 地区社会福祉協議会 民生委員による各地域の見守り活動
 - 民間事業者による見守り活動
- ※別紙 P 1 (高齢者等あんしん見守りネットワーク事業 協力事業者参照)
- ボランティア活動 ※別紙 P 2 (匝瑳市ボランティアグループ名簿)
- 認知症 (・劇団オレンジ ・オレンジカフェ)
- 介護予防 (・はつらつ支援隊 ・はつらつ支援ボランティア)

○NPO

(NPO法人南風 高齢者ふれあいきいき・どきどきサロン ビーチステーション)

3 生活支援サービスの課題等について

- (1) 日常生活圏域ニーズ調査より ※別紙 P 3～5 参照
- (2) ケアマネジャー対象 生活支援についてのアンケート調査より
※別紙 P 6 参照

- (3) 協議体・生活支援コーディネーターについて

○生活支援コーディネーターとは

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者。

○協議体とは

市が主体となり、各地域におけるコーディネーターと生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場として、中核となるネットワーク。

○コーディネート機能の考え方

日常生活ニーズ調査や地域ケア会議により、地域の高齢者支援のニーズと地域資源の状況を把握していくことと連携しながら、地域における取組を総合的に支援・整理する。

- ・地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起
- ・地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけ
- ・関係者のネットワーク化
- ・を目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一
- ・生活支援の担い手の養成やサービスの開発（担い手を養成し、組織化し、担い手を支援活動につなげる機能）
- ・ニーズとサービスのマッチング